

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんあんclass菊水ルーム		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 14日		～ 令和7年 1月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 18日		～ 令和7年 1月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが参加したい、と思える集団活動を設定する	連絡ノートや記録の記入にあたる指導員を少なくして、活動の進行する人だけではなく活動に参加する大人の数を増やす。大人が楽しむことで、子どもたちにも楽しい気持ちを伝染させて、感情を共有していく。	保護者も一緒に参加できる集団活動を増やしていきたい、親子間での楽しい気持ちの共有や思い出を増やしていきたい。
2	子どもたちの思いやりある発言や行動を引き出していく	ポイントを溜めてお菓子やおもちゃがもらえるトークエコノミーシステムを導入して、思いやりある言動に焦点を当て、更に引き出していく。1日の終わりに子どもたちの良かった点や場面を伝え、何をすれば褒められるのかを他の子にも共有していく。	児童デイの中で出来ている思いやりのある言動を通園先や家庭でもできるように般化を目指していきたい。
3	その子に合わせた個別訓練を実施することができている	学習支援やビジョントレーニング、小グループでの話し合いなどその子に必要なことや得意なことを行い、自己肯定感の向上に繋げていく。理学療法士による運動面や姿勢についての指導など専門性のある個別訓練を行うことが出来ている。	どの職員でも同様のことができるように職員全体の意識の共有とスキルアップを目的とした研修や、職員間で話し合う機会を増やしていく。専門性については未熟な点が多いので、グループ内の言語聴覚士や理学療法士等のセラピストの方々から情報をもらって知見を広げていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちが使えるパソコンがないため、プログラミングやタイピングなどの技術指導ができない	小学生になると学校でクロームブックを使用しており、クロームブックでの宿題等あるため学校から持ち帰ってくる子もいるので、ルーム内で常備して置く必要性は現状感じていない。自由時間が他の子との交流ではなく、一人でパソコンを触るだけになってしまう可能性も危惧して慎重に考えなければならない。	グループ系列の事業所にパソコンなどに特化した事業所があるため、小学生の高学年になり希望があればそちらへの移行を勧めている。
2	地域交流や保護者会などの機会が少ない	保護者会を開こうと常に考えているが、多くの保護者に来てもらいたいため親子で楽しめる活動やレクレーションを求めるあまり企画に時間がかかる。その間に長期期間での園外活動やヨサコイ、大滝夏祭り、運動会などの行事の企画に追われて、結果的に後回しになってしまっている。	大規模の親子レクを無理に企画しようとはせず、保護者会を定期的に開催していくことを優先に考えていく。
3	比較的経験年数が短い指導員で構成されているため、専門性や知識面に不安がある	指導員の異動や退職に伴い、長い年数勤務している指導員が減ってしまった。人材確保と人材育成が慢性的な課題。	経験年数を知識や専門性で補うべく、内部や外部の研修や自立支援協議会へ積極的に参加していく。また、グループ内の言語聴覚士や理学療法士等のセラピストの方々から情報をもらって知見を広げていきたい。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 あんあんclass朝水ルーム

公表日 R7年 2月 1日

利用児童数 6 回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	2				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5	1				
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	1				
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	1				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4		1	1		グループ系列の保育園と合同で運動会や夏祭りを行う機会がありますが、頻度はあまり多くはありません。利用している子どもたちは既に通園している子どもたちなので、療育の時間では特に幼稚園等との交流の機会の必要を現状ではあまり感じておりません。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が行われていますか。	5	1				
	15 日語からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	5	1				
保 護 者 へ の 説 明 等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	2	2		2		運動会やヨサコイ、親子参加型の活動を実施していますが、頻度と保護者同士で談話する時間が少ないことが課題です。今年度の3月に茶話会を予定していますが、来年度は頻度を増やす予定です。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	1				
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6					
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6					
非 常 時 等 の 対 応	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6					
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	1				
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					
	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	5	1				
満 足 度	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	5	1				
	29 事業所の支援に満足していますか。	5	1				

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	あんあんclass常水ルーム		公表日	R7年 2月 1日		
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		1日の定員数を考え調整している	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	人員配置基準に基づいて配置している	配置数は適切であるが、児童を見つけていない場面もある。急な欠勤が出た場合は負担がかかるため、パート職員の職員が必要	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構成された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	6		視覚化してわかりやすくしている。日々情報伝達を行い、必要な時は環境整備もしている		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々、整理整頓をして子どもたちが過ごしやすい環境づくりを意図している		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		施設自体が広く個室も充分にあるため、注意喚起は必要なく、個室に見られることのないなどの事情を考慮し個室の部屋を使用している		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		全職員が計画書の確認を行っている。毎日の業務分組と児童が帰宅した後に全員で振り返りを行っている	子どもたちの帰宅後に振り返りを行っているが、職員全員が参加している意識を持つ必要がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価表のみではなく、日々の連絡ノートや面談の機会など必要に応じて連絡を取っている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日職員間で振り返りを行い、意見を発する機会がある	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	本部勤務の者と他のルームの施設長で内部監査を行い、書類の不備がないか確認してもらい業務改善に繋げている	外部評価を行っていることを職員に周知されていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月内部研修を行っており、必要に応じて外部の研修も受講している	パート職員にも時間外手当を出して参加できると尚良い
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		職員全員で確認したものを公表プログラムとしてホームページに掲載している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		最低でも月1回は職員ミーティングでアセスメントを取っており、毎日の振り返りで児童のニーズを会議している	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		施設全員が関わっており、必ず目を通すよう周知している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別訓練を設定する際や児童と関わる際に確認して意図している。計画作成時に職員が目を渡し、確認するようにしている	計画に沿って行っていない場面も見られる
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	職員間で日々の行動観察の共有や保護者からの情報に基づき、適応状況の確認を行っている	アセスメントシートを作成しているが、内容が更新されていない。定着した使用ができていない
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿って設定し、全職員が確認しており、個々に合わせた必要な支援を設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	相談や助け合いができていと感じる	個々で行うことが多いが、意見をもらうことができる
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		固定化しないよう以前に行った活動内容を確認できるようにしており、偏りが生れないよう活動内容を考える職員をローテーションしている。以前の活動に追加要素を入れるなど、子どもたちが飽きないよう工夫している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		園外活動の日に個別活動を行うことができない日もありますが、日常的に集団活動と個別活動を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	行うことができない日もありますが、全員に役割を伝え確認してもらっている	打ち合わせを行っているが、実際に動いていない場面も見られる。
関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日行っており、日々の業務改善や子どもたちの情報の共有の時間に充てている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		集団活動・個別活動共に記録を記入している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		毎月モニタリングを行っており、支援計画に反映されている	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者と児童発達支援管理責任者、現場責任者など必ず2名体制で参画するようにしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	4	受け身ではあるが問い合わせに対応出来ている	学校との連携は必要に応じて取れているが、医療との連携の頻度は少ないため、必要に応じて行っていく必要がある
	26	移行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		道開先に計画書の共有が必要に応じて訪問、見学をしている	既に連携している子どもたちが利用しているため、移行に向けた支援等は行っていない
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	就学後は学校見学などで情報共有を図っている	就学先へ視察などは出しているが、就学前に情報共有までできていないので今後行っていく
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児発達支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。	1	2	利用児童の移行先の相談や日々の困りごとなどを電話や来訪時に相談している	スーパーバイズの存在について職員に周知されていない	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	グループ系列の保育園と合同で運動会や夏祭りを一緒に行う機会がある	利用している児童は既に連携している子どもたちなので、療育の時間内では特に幼稚園等との交流の機会を作っていない	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	送迎時や連絡ノートにて日頃から保護者と発達状況を伝え合うことができている	話し合うことはできているが、双方が課題と感じている部分もあるため、共通理解に至っていない部分もある	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	相談や送迎時に家庭での支援について情報提供を行っている	グループ参加での研修という形でペアレント・トレーニングを実施できていない。今後検討していく	

保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約、見学時に説明を行っている		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		基本的に対面での面談を実施しており、日程の都合が合わない場合は電話での面談を実施し、保護者の意向を確認し子どもの意向を尊重している		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	1		面談時に保護者と話し合い、計画書の支援内容の話し合いをしている	面談時に計画の方向性について話しているが、作成後は同意のサインのみで口頭での説明は行ってない
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	6			相談があった場合は連絡ノートに記載や、必要に応じて電話など直接話し合いを行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		運動会やヨガ、親子参加型の活動を実施しているが、頻度と保護者同士で話をする時間が少ない	年に1回は実施しており、来年度は頻度を増やしていく予定
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に通知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1		その日のうちに職員に通知した上で対策案を講じている	報告忘れや遅れがあり、迅速かつ適切でない事もあるため、今後の課題としていく
	41	定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			毎月のお便りや定期的にブログを更新して発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			鍵付きの扉に入れて保管しており、配布物は可能な限り保護者に手渡しするよう配慮している	連絡ノートや配布物などの入れ間違えがあるため徹底していく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			アイコンタクトやハンドサイン等、非言語的コミュニケーションを用いている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	2	3		頻度は少ないが、高齢者入所施設へさこい演習のお披露目を行うなど交流をすることができた。大滝保育所開催での夏祭りは地域住民を招待することが出来ている	施設内で開催する親子レクなどは利用児童と保護者に楽しんでもらうことを優先しているため、地域住民の招待などは現状考えていない
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に通知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			緊急時の避難手順や避難方法について保護者に通知している	事業所内で掲示している最新の感染マニュアルは保護者に通知できていない
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、誘出その他必要な訓練を行っているか。	6			安全確認の訓練や災害時非常ダイヤルの使用方法の確認など行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1		契約時に児童票を記載しており、職員に目を通すように通知している	非常時の時にしか薬を確認していない。確認はしているが、変更があった場合など把握できていない
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2		施設内のアレルギー情報を提示し意識してもらい、アレルギーの子用のおやつを分けて保管している	医師の指示書を見たことがない。アレルギーのある子には提供しないよう徹底している
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			毎月、避難訓練を行っており、災害が発生した際の避難場所や連絡手段、ケース別の避難方法について保護者に通知している	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ通知しているか。	6				事業所周辺の危険などについて把握はしているが、安全計画に基づく取組内容について保護者に通知できていない
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			毎月行っており、同じことが起きないようにはどうするかを職員全員で検討出来ている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			新入社員研修を含め、年に3回研修を実施しており、職員全員に報告書の記入をお願いしている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	2		契約時に身体拘束が必要な理由、場面、方法について説明している	支援計画に身体拘束を記載しておらず、現状身体拘束が必要な児童が居ない

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんあんclass菊水ルーム		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 14日		～ 令和7年 1月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 18日		～ 令和7年 1月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが参加したい、と思える集団活動を設定する	連絡ノートや記録の記入にあたる指導員を少なくして、活動の進行する人だけではなく活動に参加する大人の数を増やす。大人が楽しむことで、子どもたちにも楽しい気持ちを伝染させて、感情を共有していく。	保護者も一緒に参加できる集団活動を増やしていきたい、親子間での楽しい気持ちの共有や思い出を増やしていきたい。
2	子どもたちの思いやりある発言や行動を引き出していく	ポイントを溜めてお菓子やおもちゃがもらえるトークンエコノミーシステムを導入して、思いやりある言動に焦点を当て、更に引き出していく。1日の終わりに子どもたちの良かった点や場面を伝え、何をすれば褒められるのかを他の子にも共有していく。	児童デイの中で出来ている思いやりのある言動を通園先や家庭でもできるように般化を目指していきたい。
3	その子に合わせた個別訓練を実施することができている	学習支援やビジョントレーニング、小グループでの話し合いなどその子に必要なことや得意なことを行い、自己肯定感の向上に繋げていく。理学療法士による運動面や姿勢についての指導など専門性のある個別訓練を行うことが出来ている。	どの職員でも同様のことができるように職員全体の意識の共有とスキルアップを目的とした研修や、職員間で話し合う機会を増やしていく。専門性については未熟な点が多いので、グループ内の言語聴覚士や理学療法士等のセラピストの方々か

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちが使えるパソコンがないため、プログラミングやタイピングなどの技術指導ができない	小学生になると学校でクロームブックを使用しており、クロームブックでの宿題等あるため学校から持ち帰ってくる子もいるので、ルーム内で常備して置く必要性は現状感じていない。自由時間が他の子との交流ではなく、一人でパソコンを触るだけになっ	グループ系列の事業所にパソコンなどに特化した事業所があるため、小学生の高学年になり希望があればそちらへの移行を勧めている。
2	地域交流や保護者会などの機会が少ない	保護者会を開こうと常に考えているが、多くの保護者に来てもらいたいため親子で楽しめる活動やレクレーションを求めるあまり企画に時間がかかる。その間に長期期間での園外活動やヨサコイ、大滝夏祭り、運動会などの行事の企画に追われて、結果的に	大規模の親子レクを無理に企画しようとはせず、保護者会を定期的に開催していくことを優先に考えていく。
3	比較的経験年数が短い指導員で構成されているため、専門性や知識面に不安がある	指導員の異動や退職に伴い、長い年数勤務している指導員が減ってしまった。人材確保と人材育成が慢性的な課題。	経験年数を知識や専門性で補うべく、内部や外部の研修や自立支援協議会へ積極的に参加していく。また、グループ内の言語聴覚士や理学療法士等のセラピストの方々から情報をもらって知見を広げていきたい。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	あんあんclass第4水ルーム		公表日	R7年 2月 1日		
	チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		1日の定員数を考え調整している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	5	1	人員配置基準に基づいて配置している	配置等は適切であるが、児童を長切でない場もある。急な欠勤が出た場合は負担がかかるため、パート職員の増員が必要
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚化してわかりやすくしている。日々情報伝達を行い、必要時は環境整備もしている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々、整理整頓をして子どもたちが過ごしやすい環境づくりを意図している	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		施設自体が広く個室も充分にあるため、注意喚起にしよう子、他の子に見られにくいなどの事情を考慮し個室の部屋を使用している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか。	6		全職員が計画書の確認を行っている。毎日の業務分限と児童が帰宅した後に全員で振り返りを行っている	子どもたちの帰宅後に振り返りを行っているが、職員全員が参加している意識を持つ必要がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価表のみではなく、日々の連絡ノートや面談の機会など必要に応じて連絡を取っている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日職員間で振り返りを行い、意見を発する機会がある	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	本部勤務の者と他のルームの施設長で内部監査を行い、書類の不備がないか確認してもらい業務改善に繋げている	外部評価を行っていることを職員に周知されていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月内部研修を行っており、必要に応じて外部の研修も受講している	外部職員にも時間外手当を出して参加できると尚良い
適切な支援の提供	11	適切な支援プログラムが作成、公表されているか。	6		職員全員で確認したものを公表プログラムとしてホームページに掲載している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		最低でも月1回は職員ミーティングでアセスメントを取っており、毎日の振り返りで児童のニーズを会議している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最高の利益を考慮した検討が行われているか。	6		施設全員が関わっており、必ず目を送すよう周知している	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別訓練を設定する際や児童と関わる際に確認して意図している。計画書作成時に職員が目を渡し、確認するようにしている	計画に沿って行っていない場面も見られる
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	職員間で日々の行動観察の共有や保護者からの情報を基に、適応状況の確認を行っている	アセスメントシートを作成しているが、内容が更新されていない時、定着した使用ができていない
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿って設定し、全職員が確認しており、個々に合わせた必要な支援を設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	相談や助け合いができていると感じる	個々で行うことが多いが、意見をもらうことができる
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		固定化しないよう以前に行った活動内容を確認できるようにしており、漏りが生まれぬよう活動内容を考える職員をローテーションしている。以前の活動に追加要素を入れるなど、子どもたちが飽きないよう工夫をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		園外活動の日に個別活動を行うことができないう日もあるが、日常的に集団活動と個別活動を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	行うことができないう日もあるが、全員に役割を伝え確認してもらっている	打ち合わせを行っているが、実際に働いていない場面も見られる。
関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日行っており、日々の業務改善や子どもたちの情報の共有の時間充てている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		集団活動・個別活動共に記録を記入している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しを必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		毎月モニタリングを行っており、支援計画に反映されている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		今後社会に出ていくために必要になる自立の部分を個別療育で行っていき、毎月の製作活動やスライム作り、フラインクなどで自由な表現を促す活動を行っている。長期休みの前や自由遊びなどの余暇活動を行っており、児童の新たな発見や発見、好きを見つけたことを褒めている	地域交流の面が課題となっているため、今後実施していく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		集団活動、個別活動共に自己決定ができる機会を設けている	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	6		管理者と児童発達支援管理責任者、現場責任者など必ず2名体制で参加するようにしている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	4	受け身ではあるが問い合わせに対応出来る	学校との連携は必要に応じて取れているが、医療との連携の頻度は少ないため、必要に応じて行っていく必要がある
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		お迎え時に子どもの今日の様子を共有したり、年間行事の確認をして把握しお返している	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を努めているか。	2	3		保護者から様子など聞き取りすることはあるが、通っていない園児に直接情報を聞くことはしていない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2		利用児童の年齢が小学6年生までなので、障害福祉サービス事業所等へ移行する児童が少ない
関係機関や保護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	利用児童の移行先の相談や日々の困りごとなどを電話や来訪時に相談している	スーパーバイズの存在について職員に周知されていない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	ハロウィンなどの行事でお菓子を通したり交流する機会があった	先ず優先すべきは利用児童同士の交流なので、率先して児童館等と交流する機会を作っていない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2	白石区全体や今後予定している子ども部会に参加していく	自立支援協議会について職員に周知されていない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や連絡ノートにて日頃から保護者と発達状況を伝え合うことができている	話し合うことはできているが、双方が課題と感していない部分もあるため、共通理解に至っていない部分もある
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	面談や送迎時に家庭での支援について情報提供を行っている	グループ参加での研修という形でペアレントトレーニングを実施できていない時、今後検討していく

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約、見学時に説明を行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最高の利益の優先考慮の観点から、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		基本的に対面での面談を実施しており、日程の都合が合わない場合は電話での面談を実施し、保護者の意向を確認し子どもの意向を尊重している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	1	面談時に保護者と話し合い、計画書の支援内容の話し合いをしている	面談時に計画の方向性について話しているが、作成後は同意のサインのみで口頭での説明は行っていない
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談があった場合は連絡ノートに記載や、必要に応じて電話など直接話す機会を作っている	
	40	父兄の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	運動会やヨソコイ、親子参加型の活動を実施しているが、頻度と保護者同士で談話する時間が少ない	年に1回は実施しており、来年度は頻度を増やしていく予定
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	その日のうちに職員に周知した上で対策案を講じている	報告忘れや遅れがあり、迅速かつ適切でない事もあるので、今後の課題としていく
	42	定期的に講習等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月のお便りや定期的にブログを更新して発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		届付きの書類に入れて保管しており、配布物は可能な限り保護者に手渡しするよう配慮している	連絡ノートや配布物などの入れ間違いがあるため徹底していく
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		アイコンタクトやハンドサイン等、非言語的コミュニケーションを用いている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	頻度は少ないが、高齢者入所施設へよさこい演舞のお披露目を行うなど交流をすることができた。大港保育所開催での夏祭りには地域住民を招待することが出来ている	施設内で開催する親子レクなどは利用児童と保護者に楽しんでもらうことを優先しているため、地域住民の招待などは現状考えていない
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		緊急時の避難手順や避難方法について保護者に周知している	事業所で掲示している最新の感染マニュアルは保護者に周知できていない
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		安否確認の訓練や災害時非常ダイヤルの使用方法の確認など行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	契約時に児童票に記載しており、職員に目を達すよう周知している	非常時の時にしか薬を確認していない。確認はしているが、変更があった場合など把握できていない
	非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	施設内のアレルギー情報を掲示し意識してもらい、アレルギーの子のおやつを付けて保管している
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		毎月、避難訓練を行っており、災害が発生した際の避難場所や連絡手段、ケース別の避難方法について保護者に周知している	
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			事業所周辺での危険などについて把握しているが、安全計画に基づく取組内容について保護者に周知できていない
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	6		毎月行っており、同じことが起きないようにはどうするかを職員全員で検討出来ている	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		新入社員研修を含め、年に3回研修を実施しており、職員全員に報告書の記入をお願いしている	
54		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	2	契約時に身体拘束が必要な理由、場面、方法について説明している	支援計画に身体拘束を記載しておらず、現状身体拘束が必要な児童がいない